



新 歯科進化論

< 3 >

赤司 征大



医療の未来を考える上で、「保健医療2035」提言書が注目されます。同提言は昨年、厚生労働省が主催した2035年を見据えた保健医療政策のビジョンを検討する懇談会の結果をまとめ

たものです。図。(提言書は厚労省のホームページから無料で入手できます)

当たり前に感じているのではないのでしょうか。

医療全体のビジョンを考えるのにもかわらず歯科医療を代表するメンバーは選出されていませんでしたが、歯科にとっての「こうあるべき論」との間

に大きな乖離がなかったのは福音でした。治療の時代では、歯科は医科に歩調

予防時代に求められる

歯科医療政策の提言

た。



歯科医療が医療の一部であることを疑う人はいないと思いますが、歯科は医療の中で独立した存在になっており、多くの歯科医師は医療従事者としての自覚を持ちつつ、医科との距離を

を合わせてきました。しかし、超少子高齢化の時代において国家自体の困窮が現実のものとなりつつある今日、予防を浸透させ、高齢者の自立を可能とする社会の実現には、歯科の立場からの戦略に基づいた医療政策の提言が、これまで以上に大切になってきていると言えます。

「保健医療2035」には、今後20年間の医療における量の拡大から質の改善・キウア中心からケア中心へのシフトに始まり、現場主導による医療の質の向上支援・効果が実証されている予防の積極的推進による医療費削減などが提言されています。

歯科医療界は提言の一つ一つをひもとき、具体的アクションをとっていく必要があります。

(歯科医師、中小企業診断士、MBA)

2035年に達成すべき3つのビジョンとアクション

① 保健医療の価値を高める

- 患者にとっての価値を考慮した新たな報酬体系
- 現場主導による医療の質の向上支援(過剰医療や医療事故の防止など)
- 「ゲートオープナー」としてのかかりつけ医の育成・全地域への配置

② 主体的選択を社会で支える

- 「たばこフリー」オリンピックの実現
- 効果が実証されている予防(禁煙、ワクチンなど)の積極的推進、特に、重症化予防の徹底による医療費削減
- 健康の社会的決定要因を考慮したコミュニティやまちづくり

③ 日本が世界の保健医療を牽引する

- 健康危機管理体制の確立(健康危機管理・疾病対策センターの創設)
- ユニバーサル・ヘルス・カバレッジや医薬品等承認などのシステム構築の支援
- グローバル・ヘルスを担う人材の育成体制の整備